

2025年卒
会員調査

インターンシップの新定義に関する認知度調査

2023年3月発行

2023年度の実施からインターンシップの新たな定義が適用される。そこで、株式会社ディスコでは、キャリアス就活登録学生のうち、大学2年生（2025年3月卒業予定者）を対象に、新定義の認知状況や、プログラムへの参加意向などを調査・分析した。

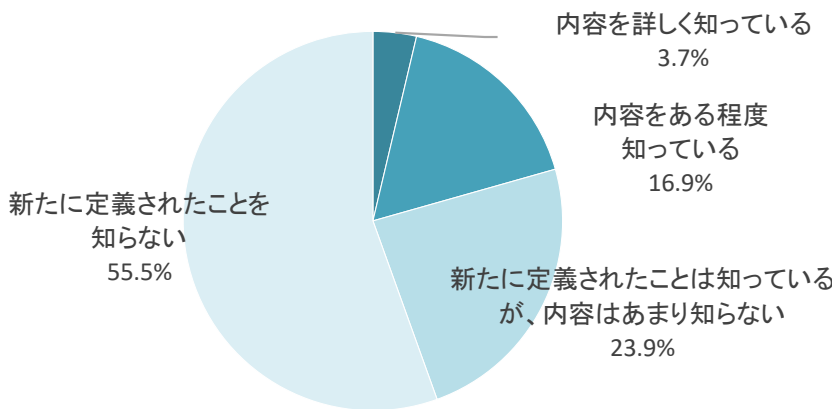
《 調査概要 》

調査対象 : キャリタス就活会員のうち、2025年卒業予定の大学2年生（調査当時）
 調査時期 : 2023年2月20日～3月13日
 調査方法 : インターネット調査法
 回答者数 : 301人（文系246人、理系55人）
 調査機関 : 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

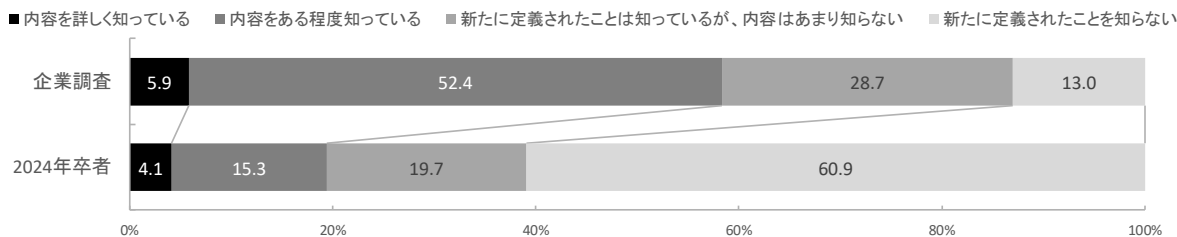
1. インターンシップ新定義の認知度

大学2年生の3月前後の調査時点で、インターンシップの定義について「新たに定義されたことを知らない」が過半数に上り（55.5%）、現時点ではルール変更の認知度は高くない（計44.5%）。内容を「詳しく知っている」という人はわずか3.7%。「ある程度知っている」（16.9%）を合わせても約2割にとどまる（計20.6%）。

2025年卒者のインターンシップ新定義の認知状況



【参考】 インターンシップ新定義の認知状況

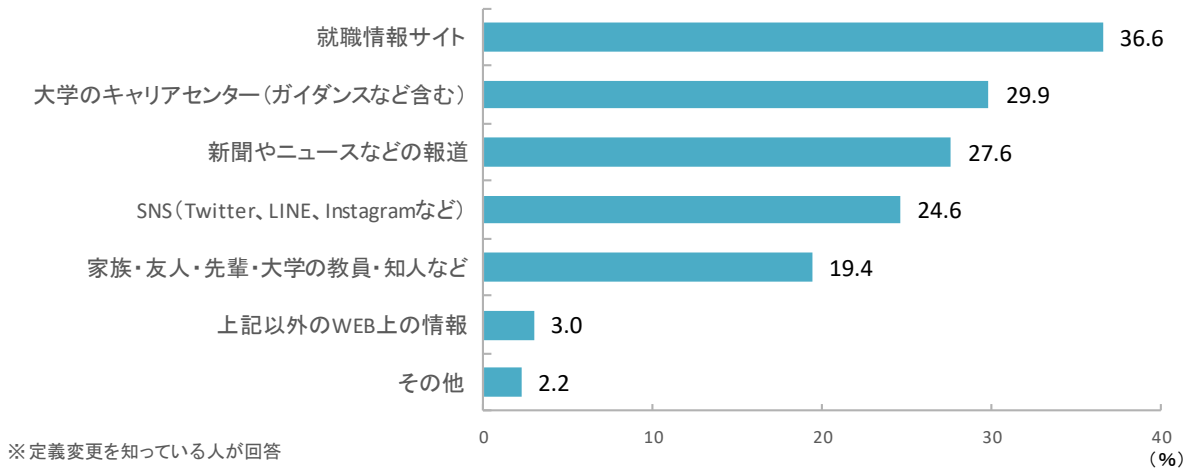


出所：ディスコ「2024年卒・新卒採用に関する企業調査—採用方針調査」（2023年2月調査）
 出所：ディスコ「キャリアス就活2024学生モニター インターンシップ等に関する特別調査」（2023年3月調査）

2. 定義変更を知ったきっかけ・情報源

定義変更を知っているという人（全体の44.5%）に、そのきっかけを尋ねた。最も多いのは「就職情報サイト」で3割強（36.6%）。次いで「大学のキャリアセンター」が3割（29.9%）。「新聞やニュースなどの報道」（27.6%）、「SNS」（24.6%）が2割台で続くなど、比較的分散している。

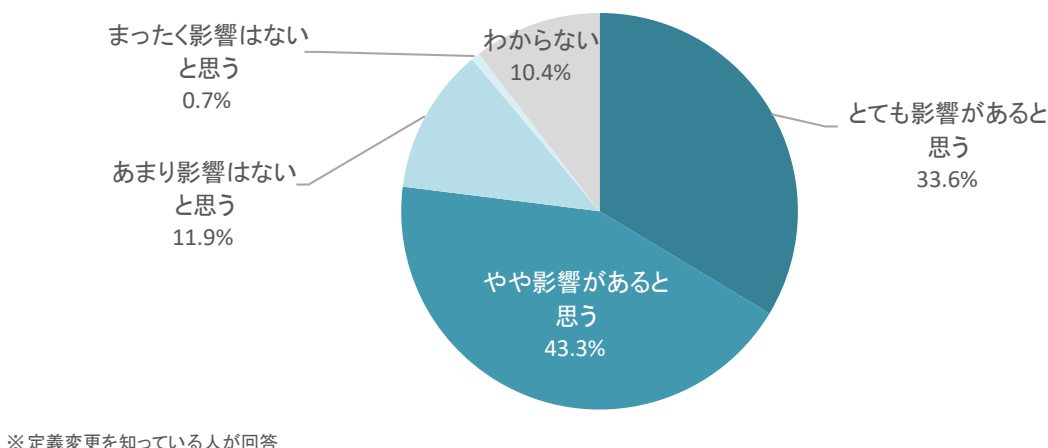
定義変更を知ったきっかけ・情報源



3. 定義変更による就職活動への影響予想

インターンシップの定義が変更になることで、自身の就職活動に影響があると思うかを尋ねたところ、「とても影響があると思う」が3割超（33.6%）。「やや影響があると思う」（43.3%）を合わせると、7割強に上る（計76.9%）。

定義変更による自身の就職活動への影響予想

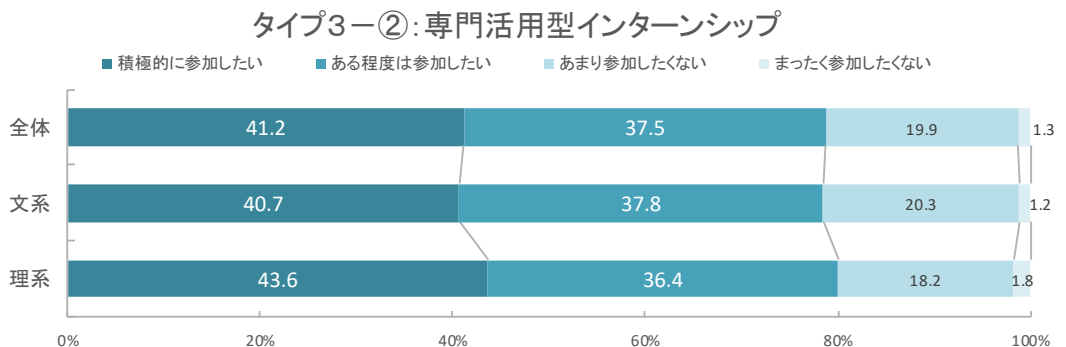
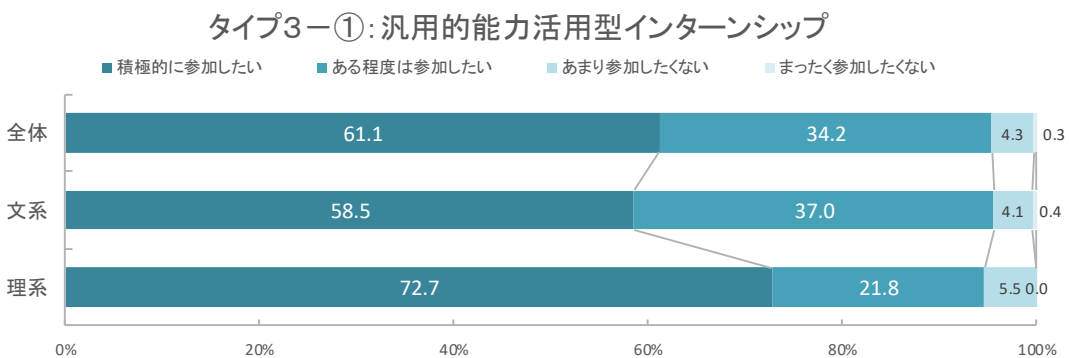
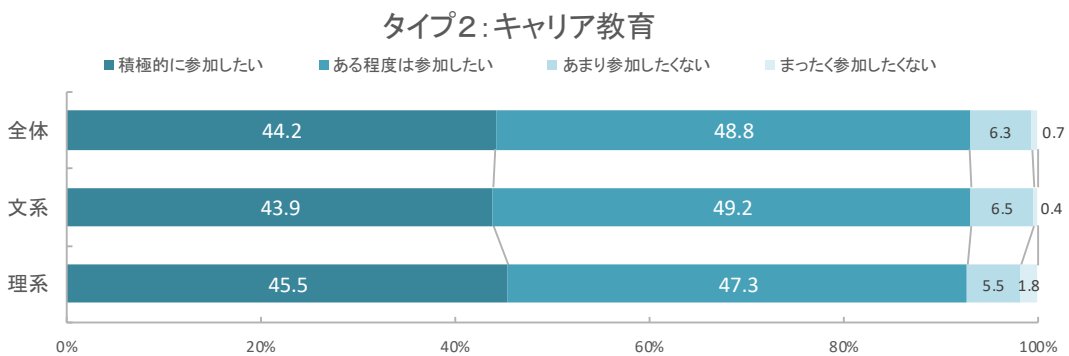
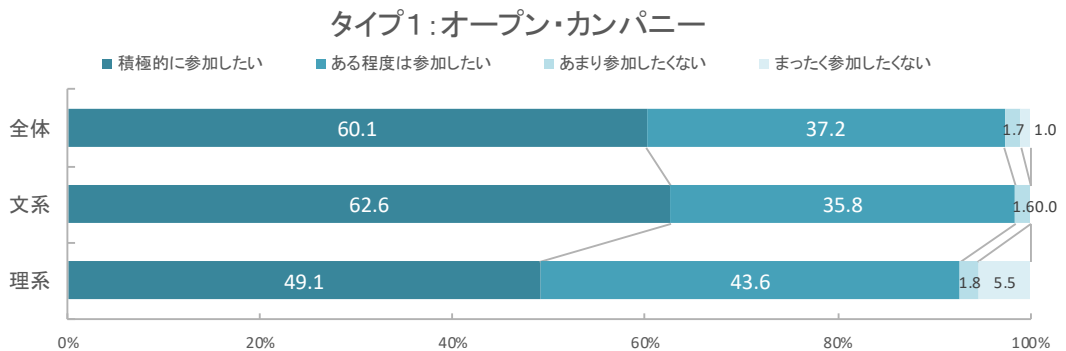


■ 自身の就職活動への影響について

- ・インターンシップに参加するために準備を行い、参加できれば内定に進みやすくなると思う。
- ・インターンシップに多くの時間がかかってしまうと思う。
- ・元からインターンシップで事実上の選考をしていた企業もあり、そうした企業では今までと変わらず、「とても影響がある」とまでは言えないと思う。

4. 各タイプの参加意向

タイプ1から3について、定義を示したうえで、全員に参加意向を尋ねた（大学院生を対象に実施されるタイプ4は、本調査回答者は2023年度は対象外のためここでは省略）。総じて高い参加意向が表れているが、中でも「タイプ1：オープン・カンパニー」（60.1%）、「タイプ3－①：汎用的能力活用型インターンシップ」（61.1%）は、「積極的に参加したい」が6割を超える。文理別に見ると、文系ではタイプ1が62.6%と最多で、理系ではタイプ3－①が72.7%と非常に高い。「タイプ3－②：専門活用型インターンシップ」は、2週間以上と定められていることから、学業や学生生活と両立できる範囲で参加したいと考える学生が少なくないようだ。



■ 各タイプのイメージや期待することなど

<タイプ1：オープン・カンパニー>

- ・まだ業界に関する詳しい情報を得ていないため、説明会などで理解を深めたい。
- ・オンライン等で手軽に情報収集できそう。
- ・単日で企業を知れることがメリットだと思う。大まかでも、企業の考え方や求める人材について知りたい。また、短時間であったとしても企業の方とお話をできる機会があればいいと思う。
- ・様々な企業の説明を受けることで、企業のことや職種のことを理解するきっかけをたくさん作ることができると思う。

<タイプ2：キャリア教育>

- ・働くことの理解を深めたい。
- ・研究と業界研究を兼ねられそう。
- ・大学主導なら安心して参加できるし、働くことへの意識を変えることができる気がする。

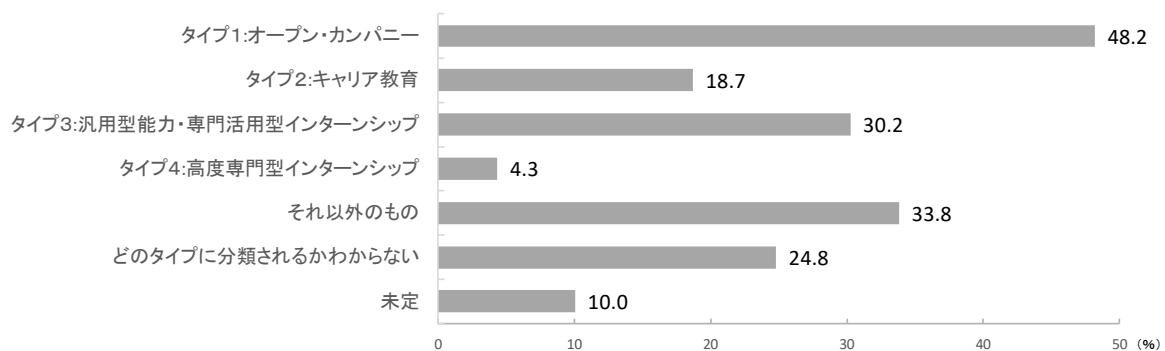
<タイプ3-①：汎用的能力活用型インターンシップ>

- ・実務体験をすることで、現場の雰囲気や仕事のイメージを具体的にすることができると思う。
- ・ある程度やりたいと思う仕事を1週間ほど体験できて、その後に振り返る機会があれば、自分にとって向いているかなどをしっかりと考えるきっかけになると思う。
- ・企業研究をしっかりとしたうえで参加したい。内定につなげたい。
- ・短期間のインターンシップなので、是非活用して今後の就活の材料にしたいです。その中で、社会人としてのマナーやその企業で働くために何が必要なのか、勤務を通して学びたいです。

<タイプ3-②：専門活用型インターンシップ>

- ・長期的に就業体験を行うことで、自分の能力が活かせるかが、より明確にわかるようになる。
- ・長ければ長いほど、職場の雰囲気などを知ることができる。また、他の参加者とも仲良くなったり、人脈を広げたりしやすいと思う。
- ・期間が長く、時間の確保や参加の決心が難しそう。
- ・インターンシップに時間を費やしすぎて、授業をおろそかにするのは避けたい。

【参考】企業調査：2023年度実施予定のタイプ



出所：ディスコ「2024 年卒・新卒採用に関する企業調査—採用方針調査」（2023 年 2 月調査）

※学生のキャリア形成支援活動（4 類型）

- タイプ 1：オープン・カンパニー（業界・企業による説明会・イベント／単日）
 タイプ 2：キャリア教育（大学等の授業・産学協働プログラムや企業による教育プログラム）
 タイプ 3-①：汎用的能力活用型インターンシップ（職場における実務体験／5 日間以上）
 タイプ 3-②：専門活用型インターンシップ（職場における実務体験／2 週間以上）
 タイプ 4：高度専門型インターンシップ（自然科学分野の博士課程対象のジョブ型研究インターンシップ等）